



# dec monthly

2016.6.1 vol.369 デックマンズリー



## 第95回 TRB年次総会 参加報告

dec 上席研究員 永田 泰浩

2016年1月10日から14日にかけて、アメリカのワシントンD.C.で開催された第95回TRB(Transportation Research Board)年次総会に参加しました。TRBは、米国議会の諮問機関であるNational Academy of Scienceの一組織であり、1920年にその前身が設立された交通と運輸に関する研究を推進する団体です。論文発表を行うとともに、当センターの業務、研究に関連する論文や、交通に関連する最新技術に触れてきましたので、ここに報告致します。

### 《口頭発表とポスター発表》

道路はもちろん、鉄道、港湾、空港、都市計画など、交通に関する非常に幅広い分野の発表、報告が行われていました。セッション数が約800、発表件数も5,000件以上あり、参加者数は1万人に達するような巨大な会議でした。

著者が口頭発表の準備にあれこれと忙しくしている中、同行した金田統括部長が北米での最新のロードキル対策のセッションや自動運転に関するセッションなど、数多くのセッションに参加し、最新の情報収集にあたりました。

著者は、冬期道路維持管理のセッションにおいて、口頭発表の機会をいただきました。会場の皆さんが一生懸命に聞いてくだ

さり、吹雪についての先駆的研究者Ronald D. Tabler氏の御蔭元であるワイオミングの研究者からも質問をいただきました。発表練習や想定質問などの準備にも時間を割きましたが、まだまだこちらの伝えたいことを十分に伝えられる発表ではなかったので、今後も英語の勉強を継続し、発表のチャンスをうかがっていきたくと思っています。



口頭発表の様子



ポスターセッションの状況



技術展示会場の様子

### 《展示会場》

技術展示会場においても、ソフト系の最新技術から、安全対策用施設、計測機器、工具、道路維持管理用の車両まで、非常に多彩な展示内容となっていました。日本の企業では、NEXCO西日本がブースを出していました。

### 《ワシントン市内の様子》

自転車のバス前面への搭載や地下鉄への持ち込みは、5年前に訪問した際も見えていたのですが、自転車レーンの増加と明示化、ポロクのようなレンタル自転車の整備強化、そして写真のようなスタイリッシュな駐輪場など、市民の足としての自転車の活用がかなり広がってきていることを、今回、実感しました。



思わず入りたくなる自転車の駐輪場

## 編集後記

今年も、福島町で開催された「第25回北海道女だけの相撲大会」に、dec女子3名で参加してきました。今年は、シーニックバイウェイ北海道(以下SBW北海道)の「どうなん、追分シーニックバイウェイ」が候補ルートから指定ルートに格上げとなったこともあり、有志一同でSBW北海道の懸賞幕を14本掲出。土俵を回るSBW北海道の懸賞幕はなかなか見応えするものでした。ちなみに、取り組み結果はBブロックで優勝でき、懸賞金46本ゲットしました。笑(M.K)



左から富田、藤井



懸賞幕の表彰状

### ● Monthly Topic (マンスリートピック)

## 豊かな実績を生かし、多様化する北海道の地域課題に 대응 ~平成28年度dec定時総会~

### ● dec Report (デックリポート)

## 第95回 TRB年次総会 参加報告



dec Interview >>> 商環境プロデューサー コンセプト株式会社 代表取締役 佐藤 雄一 氏

例えば、静岡名産のお茶に十勝小豆を使ったお菓子がそろえば最上のひととき。それなら東京など大集散地経由ではなく、二つの地域がもっと直接に互いのモノ・人・価値観を交換し、幸福な関係をつくっていき、というのが「互産互消」です。その発表・提唱者で、北海道の頼もしいサポーターでもある佐藤雄一さんに伺いました。

「自然回帰マーチャンドライジング」を標ぼうし、趣味のフライフィッシングを楽しむ目的でもたびたび来道されています。静岡生まれの佐藤さんの自然へのこだわりは、どこから来ているのでしょうか。

私生まれ育ったのは静岡県森町という掛川市から北部に10数キロ入った山村でした。家業は林業を主に茶やしいたけなども生産する農林家でしたが、私の子どものころには、すでに地域の離農は進み、小学校に入ったころには集落は6軒のみ。さらに年ごとに1軒ずつ減って、卒業するころにはわが家だけになりました。子ども心に廃村の現実を目の当たりにした強烈な体験です。

ですから、良くも悪くも自然には特別な思いがあります。離農した人家を朽ちさせていく脅威を感じる一方で、自然の川は最高の遊び場で、毎日、自転車で釣りに出かけ、まさに釣り小僧であり、自転車小僧でした。魚は水の上に見える人

間は警戒するのに、こちらが水のなかに入ると目前に近づいてきて一緒に泳ぐ感覚になる。これはプールでは味わえない醍醐味です。

こんな体験があるので、東京での学生時代を経て静岡市内の広告会社に勤務してからも「いつか、自然回帰したい。『自然に帰ること』の商品化こそ、自分のテーマだ」と思うようになりました。折しも、広告でモノが売れる時代は終わり、広告ではなく、時代の要請に応える商品そのものや商いの場面をつくる仕事になりたいという気持ちもありました。

そこで2000年に広告会社を退社し、自然を身近にしながら快適さを志向するスローライフやローカルライフに向けたマーチャンドライジングを追求しようとして現在の会社を設立したのでした。

活動拠点の静岡県掛川市は「生涯学習都市」として知られ、2002年には全国初の「スローライフシティ」宣言を掲げました。佐藤さんもキーパーソンの一人ですね。

掛川市は榎村純一市長(1977~2005年在任)のもと、1979年に全国初の「生涯学習都市宣言」をしました。名市長として慕われた榎村氏が主張したのは「宿命の土着民でなく選択的定住民であれ」ということ。地域で生きる価値を積極的に見出し、そのために生涯、学び続けていくことが必要だと提唱しました。その理念の集大成が、全国初の「スローライフシティ宣言」です。「ゆったり、ゆっくり、心豊かに」

サイクルツーリズムや緑茶文化で深まりつつある静岡と北海道の「互産互消」。地域がワン・トゥー・ワンでつながっていく。価値を追求していきます。

## dec Interview

さとう ゆういち

1962年静岡県森町生まれ。桜美林大学卒業後、静岡市内の広告会社に勤務。企業の販売促進、自治体の広報・観光振興などに携わる。2000年、商品開発、商品デザインを主業務とするコンセプト株式会社を共同で設立。掛川市を拠点に、商環境プロデューサーとして全国で幅広く活動を展開している。

という地域づくりを、北海道開発庁から赴任してきた小松正明・副市長(2002~04年在任、2010~13年釧路市副市長)と共に携わりました。

私は関連するイベント開催など市民活動のサポートに携わり、2004年にはNPO法人「スローライフ掛川」の設立・運営に参画。そこで地域再生策としてのスローサイクリングを検討する機会を得たことが、サイクルツーリズムに本格的に取り組むきっかけです。2006年には「掛川ライフスタイルデザインカレッジ」をスタートさせ、フライフィッシングやカヤックの楽しみ方など、自然との接し方の作法を提案する講座を運営しました。さらに2010年、「ローカルライフスタイル研究会」を立ち上げて、北海道と静岡を結ぶ地域間交流による食とツーリズムの「互産互消」の事業に乗り出しました。

#### 北海道に着目される理由とは、どのようなことでしょうか。

静岡の人間からすれば北海道はアウトドア・ツーリズムのメッカで、釣りにしても自転車にしても静岡のスケールではありません。特にフライフィッシングを愛好する者としてはサケ・マス科の大きな魚を釣りたいというのが本能です(笑)。2009年に富士山静岡空港が開港し、千歳便の就航で画期的に往来しやすくなって、「これはますます釣りに行くしかない」と嬉しく思ったのです。

仕事での北海道とのつながりは、2006年に「ツール・ド・北海道 国際大会」のあり方委員会(北海道開発局)の委員として札幌に呼ばれたことが最初です。来札するなかで、あるときサイクルショップに出かけたのですが、雪深い1月の、しかも平日なのにお客さんがたくさん来ているのです。店主によると「みんな走れなくて聞かどし、せめてもモノを買って帰ってくる」とのこと(笑)。「それなら静岡に走りに来たい」。逆に、夏は静岡のサイクリストが涼しい「北海道へ」と思い、「互産互消」の可能性を確信する契機となりました。

この他、札幌には、商業施設や都市のデザイン開発で有名なプロデューサーでフライフィッシングの愛好家でもある浜野安宏氏の店舗プロデューサーのサポートで訪れたこともありました。

こうして行き来しながら実感したのは、静岡と北海道の相性の良さです。静岡は北緯34度、札幌は43度で年間平均気温は9度の差があり、食文化も生産物も異なり、それを交換し合う意味は大きい。また、静岡は関東圏でも関西圏でもない「狭間の地」で、あいまいであるが故に受容性があり、人の気質もマイルドで北海道の人と似ていると感じています。

#### その後、十勝・豊頃町商工会の観光振興事業「こころふく。観光プロジェクト」(2013~15年度/事務局:dec)に検討委員として参画され、互産互消の実践が始まりました。

「こころふく。観光プロジェクト」は、開拓者と一次産業による観光振興(経産省補助事業・小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業)は、豊頃町の自然や歴史、農水産業を生かしたサイクルツーリズムやグリーンツーリズムの展開と地域間交流による産品の販路拡大の可能性を追求する取り組みです。

豊頃町の開拓の祖は二宮尊徳の孫である二宮尊親で、福島県から興復社の一団を率いて入植し、町民憲章には尊徳の「報徳のおしえ」の継承がうたわれています。「こころふく(興復)」とは、疲弊した農村を復興しようという思いが込められた言葉で、この開拓の志を大事にしながら、静岡県を中心とした地域間交流を推進するのがプロジェクトの目的です。静岡とのつながりの源は尊徳の報徳思想で、その一大拠点である大日本報徳社が掛川市にあるのです。私は静岡側のキーパーソンとして、さまざまな連携事業の提案や試行にかかわりました。

具体的には、静岡県のサイクリストを対象にした豊頃町のガイド付きツアーや冬のワカサギ釣りツアーなど交流型ツーリズムのモニターツアーの実施、また、静岡のお茶やフルーツと豊頃町の小豆、小麦などのコラボによるスイーツの開発や販路開拓です。プロジェクトは2015年度で終了しましたが、その後、北海道のサイクリストが静岡を走る「ゆる廻州ガイドライド」へ参加するなど回を重ねて交流は加速しています。

近年は、ペットボトル用の緑茶ティーバッグを開発するなど、特に緑茶文化の普及に注力されています。今後の

#### 取り組みについてお聞かせください。

以前から北海道では、おいしい緑茶の飲み方が知られていないと感じていました。実際、家庭での緑茶の購入量や急須の普及率は全国でも低く、静岡で親しまれている緑茶文化の魅力をぜひ体感してもらいたいと思ったのです。その試みの一つが、昨年7月に商品開発した「南アルプス南麓・緑茶ティーバッグ」で、500mlペットボトルのミネラル・ウォーターにボンと入れてシャカシャカ振れば、手軽に水出しのおいしいお茶が楽しめます。札幌のイベントで先行販売したところ、飛ぶような売れ行きでした。私は、札幌のスイーツにこそ、さわやかな緑茶が最適だと思っています。おかげさまで、道内で静岡の緑茶を扱う店舗は着実に増えてきました。

一方、北海道には静岡県人にとって魅力的なチーズや豆類など多様な産品があります。しかも、静岡県の県民所得は全国でもトップクラスで購買力は高く、北海道から見れば、実に有望なマーケットです。新千歳空港の半径50キロ以内の札幌圏は250万人、富士山静岡空港の半径50キロ以内もそれに匹敵する約240万人。食文化、生産物の異なる両地域が互いに、その良質なマーケットを交換し合えば、双方で豊かさが顕在化します。

ツーリズムでも人の交流を進め、季節に応じた快適な二拠点居住を推進したいと思っています。東京はあまり相手にせず、二つの地域の交感で豊かさを享受できればいい(笑)。ぜひ、北海道の人は、北海道への憧れ感が極めて強い静岡県人のニーズを見逃さないでほしいですね。



H27年度ワカサギ釣りツアー



南アルプス南麓・緑茶ティーバッグ

## 理事長挨拶

平成27年度の収支決算は、調査研究受託収益が18億円強と、一般社団法人移行後4年目も引き続き黒字決算で業績は順調でした。公益目的支出計画に基づく調査研究事業をはじめ円滑な事業運営を図ることができたのは、会員・関係各位のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

調査研究事業は、寒地開発技術、食、環境、観光を念頭に置いた開発事業の諸課題に関する調査研究を行い、ニュースレター発行等で広く成果を発信、また、情報収集や意見交換を目的としたシンポジウム等の開催、寒地開発技術向上のための国

際交流を推進しました。受託関連事業は、道路行政の計画支援、シーニック関連、公共交通、観光、環境、防災等多岐にわたる業務を北海道開発局等国の機関、北海道、札幌市等自治体等から受託しました。今後とも多様な課題に適切に対応しながら、安定的な事業展開を図ってまいります。



### —平成27年度 事業報告—

## 交通・道路、寒地技術、環境、観光など 新たな視点取り込み、成果を追求

【自主研究】

#### モビリティ・マネジメントに関する調査研究

「第10回日本モビリティ・マネジメント会議」(東京都)で3編の研究発表を行いました。

#### 沿道環境保全、活用に関する調査研究

シーニックバイウェイ北海道の各ルートについて景観、観光、地域づくり活動に参加し、事務局及び活動作業の支援を行いました。

#### 公共交通に関する調査研究

「第5回地域の交通環境対策推進者養成研修会」(神奈川県藤沢市)に参加し、商業地の交通マネジメントについて調査しました。

#### フットパス等に関する調査研究

フットパスや自転車、カヌー等を組み合わせた旅行スタイル「北海道版スイス・モビリティ」導入を目指して「北海道版スイ

ス・モビリティ研究会」を設立。天塩川流域ミュージアムパークウェイ等を実証エリアに試走を行いました。

#### 福祉交通やバリアフリーツーリズムに関する調査研究

函館市でNPO法人「スプリングボードユニティ21」と共同でバリアフリーボランティアの実地研修を実施。「第19回日本福祉のまちづくり学会全国大会in柏」で1編の研究発表を行いました。

#### 「ふゆトピア都市」に関する調査研究

ウィンターライフ推進協議会の活動に参加し、冬歩行者転倒事故防止普及啓発CMの作成やつるつる路面予報の発表、凍結防止剤融雪・融氷実験等を実施。「ボランティア活動による広域交流イノベーション推進研究会」では3地域計4回のボランティアツアーを行いました。

5月27日、京王プラザ札幌において平成28年度dec定時総会が開催され、予定の5議案が滞りなく承認されました。平成27年度の事業報告を中心に概要をお伝えします。

会員数  
(平成28年3月31日現在)  
法人会員：228社  
個人会員：64名

吹雪時の視認性に関する調査研究

北大と共同で吹雪時の視界状況から吹雪による吹雪量、吹きだまり量を推定する技術について研究。成果を米国開催のTRB(Transportation Research Board)で口頭発表し、評価を得ました。

積雪寒冷地における道路緑化に関する調査研究

北海道の道路木本緑化に関する資料収集や現地調査を行い、成果を「第14回日中冬期道路交通ワークショップ」(内モンゴル自治区)等で発表。また、「図説・土木技術者のための樹木学入門」(斎藤新一郎著)を制作・出版しました。

気候変動下における雪氷環境に関する調査研究

暴風雪災害が多発している道東地域を対象に簡易型のタイムラプスカメラを設置し、初冬期からの吹雪量と吹きだまり状況の確認、防雪効果の低減状況を把握するための観測を行いました。

エコ・コリドールに関する調査研究

交通機関と動物の衝突事故発生状況の調査を行い、地理情報システムデータを更新し、道内に生息する野生動物の分布や移動に関する調査を実施。ロードエコロジー研究会のメンバーと共に道央自動車道のオーバーアブリッジでのモニタリング調査を開始しました。

エゾシカの被害対策検討に向けた調査研究

鉄道総合研究所と列車事故対策に関する共同研究を実施。「野生生物と社会」学会(沖縄県)、「野生生物と交通」研究会国際シンポジウムに参加し、成果発表等を行いました。

土木史に関する調査研究

土木史に関する活用事例の調査を実施し、成果を「土木学会北海道支部年次技術発表会」で発表したほか、土木学会北海道支部と共同で市民対象の土木遺産ツアーを行いました。

環境、エネルギーと社会資本整備に関する調査研究

「北海道EV・PHV普及促進検討研究会」の事務局としてホームページ運営等を行うと共に「北海道バイオディーゼルの研究会」事務局として研究会の運営支援を行いました。

北海道の「地域ブランド力」を活かしたビジネスモデルの開発に関する調査研究

「北海道産ワインとチーズの国際ブランド確立による中国等への販路拡大と北海道チーズ&ワイン街道への観光客誘致による地域経済活性化プロジェクト」に参加し、ブランド化や受け入れ環境整備について検討。また、「道北の地域振興を考える研究会」に参加し、公共投資の経済効果について調査研究や講演会を実施しました。

北海道の地域防災に関する調査研究

「ほっかいどう防災教育協働ネットワーク」に加わり、研修会等に参加。教育ツールの研究として、若手技術士を対象とした研修会で防災教材クロスロードゲームの手法を用いた意見交換を行いました。



白糠町DIG(災害図上訓練) [北海道建築士会釧路支部]

新規

北海道新幹線開業に向けた2次交通及び周遊観光に関する調査研究

新幹線とレンタカーを組み合わせた北海道観光の可能性や二次交通のあり方の調査研究を実施。道央・道南のシーニックバイウェイ4ルートについて広域周遊促進の可能性を検証しました。

新規

学校教育との連携による社会的ジレンマ問題の解消に関する調査研究

路面電車沿線活性化協議会との協働により、札幌市立真生館小学校で路面電車を教材とした総合的な学習の時間の支援を実施しました。また、こども環境情報誌「エコチル」において小学生対象のアイデアコンテストを実施しました。



「公共交通アイデアコンテスト」受賞式の様子

新規

北海道の歴史・文化を活用したヘリテージツーリズムに関する調査研究

藤村久和氏(アイヌ語地名研究会代表)を講師にアイヌ文化に関する勉強会を開催。また、アイヌ語地名についての学習会を定期開催しました。



アイヌ語地名の勉強会の様子

一 役員の一任

- 会長 佐藤 馨一
- 副会長 能登 繁幸
- 理事長 本多 満
- 常務理事 竹腰 稔
- 理事 猪俣 茂樹
- 理事 越前 雅裕(新任)
- 理事 木下 勲
- 理事 高野 伸栄
- 理事 田村 亨
- 理事 原文宏
- 理事 山崎 弘善(新任)
- 理事 渡辺 一郎
- 監事 渡部 明雄(新任)
- 監事 太田 武司

※高橋了氏、牧野光博氏は理事を、今井秀明氏は監事を退任されました。

技術情報の集積・活用と研究交流

【自主プロジェクト(継続)】

寒地開発技術に関する情報・資料の収集整理

国内外の寒地技術や交通施策・地域政策に関する技術情報を収集整理しました。

技術資料等のデータベース化に関する調査研究

最新の社会資本整備技術資料等を収集整理し、データベース化に向けた調査を行いました。

「寒地開発技術委員会」の設置

4つのワーキンググループで寒冷地の道路事業に関する設計基準等を検討しました。

インターンシップ制度

筑波大学大学院、岩手人学から各1名を受け入れました。

沿道の環境を守り、活用する団体との共同研究事業

シーニックバイウェイ北海道の指定ルートの活動団体を対象に活動内容の検証や優秀事例の選考を行いました。



decシーニック賞「釧路温泉・阿寒・摩周シーニックバイウェイブランドの構築に関する研究」

- ◆ 開発事業等に関する調査研究の受託 計100件
- ◆ 関連機関・団体等への参加 計17件

研究成果の発信と国際交流の推進

調査研究成果等の紹介および普及

- ニュースレター(dec monthly)の発行12回
- ホームページの更新(URL <http://www.decnet.or.jp/>)
- 学会・シンポジウム等での研究発表等



ニュースレター(dec monthly)

←第18回「日本福祉のまちづくり学会 全国大会市民公開シンポジウム」

出版刊行図書

- 「第31回寒地技術シンポジウム論文・報告集」(概要集等を会員・関係者に配布・販売)
- 『エゾシカの被害と対策～農林業被害対策編～』(会員及び関係機関に販売)
- 『図説・土木技術者のための樹木学入門』斎藤新一郎著(会員及び関係機関に販売)



「図説・土木技術者のための樹木学入門」斎藤新一郎著(dec研究顧問)

↑「エゾシカの被害と対策～農林業被害対策編」

国際交流

- PIARC国際冬期道路会議冬期道路委員会との技術交流
- 米国TRB冬期道路管理委員会との技術交流
- 米国シーニックバイウェイ関係機関との技術交流
- 第14回日中冬期道路交通ワークショップの開催(中国内モンゴル自治区)

シンポジウム、セミナーの開催

- 第31回寒地技術シンポジウム(開催地:札幌市)
- 「野生生物と交通」研究発表会15周年記念国際事業「エコインフラと道路の安全性に関する国際シンポジウム」(開催地:札幌市)
- 講演会・地域政策研究セミナー等の開催(3件開催)



←地域政策研究所セミナー 話題提供 須田 日出男氏

# 平成28年度 dec 事業計画

平成28年5月20日開催の理事会で承認された本年度の事業計画をご報告します。

## 1. 調査研究事業

### [自主研究]

#### モビリティ・マネジメントに関する調査研究

「日本モビリティ・マネジメント会議」(愛媛県)や土木学会土木計画学研究発表会(札幌市)、日本交通学会等に参加し、発表や情報交換・収集を実施します。

#### 沿道の環境保全、活用に関する調査研究

沿道住民と連携した活動に対する社会的価値評価手法や道路維持管理システム、道の駅との連携等に関する調査研究を実施します。

#### 公共交通に関する調査研究

道内の交通計画の学識者と共同研究を行い、北海道と青森県の自治体等を対象にニュースレター等で情報発信します。

#### フットパス・自転車等に関する調査研究

「北海道版スイス・モビリティ研究会」で新たな観光の展開可能性を研究すると共に、都市型サイクルツーリズムについて研究します。

#### 福祉交通やバリアフリーツーリズムに関する調査研究

「(仮称)北海道バリアフリーツーリズム推進協議会」の運営支援を行い、「福祉のまちづくり学会」(函館市)に参加。「北海道ユニバーサルツーリズム・フォーラム」(旭川市)の開催を支援します。

#### 「ふゆトピア都市」に関する調査研究

「北海道みまもりサポート研究会」では流雪溝など地域協働型の雪対策施設について検討。「ボランティア活動による広域交流イノベーション推進

研究会」の運営を行い、実践的な調査研究を実施します。

#### 吹雪時の視認性に関する調査研究

北大等と共同で、吹雪時の視認性を画像解析により数値化する技術の導入に向けた試行と活用方策について調査研究を実施します。

#### 積雪寒冷地における道路緑化に関する調査研究

道路木本緑化に関する文献資料の収集整理及び現地調査等を行い、積雪寒冷地に適した道路緑化樹の整備等について研究を継続します。

#### エコ・コリドールに関する調査研究

ロードキルデータ等を用いた野生動物の分布等に関する調査を行い、酪農学園大学等との共同研究を実施。国際会議 I E N E 2016 に参加し、成果発表を行うほか、「道路生態研究会」に参画し、野生生物と交通に関する調査研究、普及啓発活動を行います。

#### エゾシカの被害対策に関する調査研究

獣害対策や捕獲技術、生物資源の有効活用等、共同研究等を実施。『エゾシカの被害と対策～交通問題編～』出版に向け、対策事例の収集や札幌圏で意識調査を行います。

#### 土木史に関する調査研究

北海道の土木史について活用事例(土木遺産等)等に関する調査を継続。「北海道みちの歴史研究会」の運営を支援します。

#### 環境、エネルギーと社会資本整備に関する調査研究

「北海道EV・PHV普及促進検討研究会」の事務局運営を行うと共に、充電器等のインフラ整備や課題抽出の調査研究を実施。「北海道バイオディーゼル研究会」の事務局運営を行い、BDF利用促進の研究を継続します。

#### 北海道の「地域ブランド力」を活かしたビジネスモデルの開発に関する調査研究

第6次産業の展開によるビジネスモデル開発の調査研究を実施。シーニックバイウェイ支援センター等と連携し、安価な小規模物流の可能性について実証実験を実施します。

#### 気候変動下における雪氷環境に関する調査研究

雪害や雪問題に関する現状・課題を分析・検討し、冬期道路交通等に与える影響について調査研究を実施。特に、吹雪対策については道東地域を対象に現地調査を行い、分析します。

#### 北海道の地域防災に関する調査研究

関係機関・団体と連携しつつ、北海道の地域防災力向上方策等について検討し、防災教育に関する調査研究を実施します。

#### 北海道新幹線開業に向けた2次交通及び周遊観光に関する調査研究

北海道新幹線の経済効果の波及を目的に、レンタカーとの組み合わせによる周遊観光向上策を検討。北大等との共同研究によりレンタカー観光普及に向けた研究を実施します。

#### 学校教育との連携による社会的レシマ問題の解消に関する調査研究

モビリティ・マネジメント教育等の調査研究を実施。札幌市の路面電車ループ化に合わせた路面電車沿線小学校との連携プロジェクト等を行います。

北海道の歴史・文化を活用したヘリテージツーリズムに関する調査研究  
アイヌ民族文化等の文化資源を活用したツーリズム、またネーチャーツーリ

ズムに関する調査研究を実施。ネーチャーツーリズムの国際団体ATTAに参加し、情報交換を行います。

## [自主プロジェクト]

#### 寒地開発技術に関する情報・資料の収集整理

雪氷学会、雪工学会、寒地技術シンポジウム、土木学会土木計画学研究委員会、米国運輸調査委員会(TRB)等、国内外の会議や各種研究機関等との交流を通じて、寒地技術や交通政策・地域政策に関する技術情報を収集、整理します。

#### 技術資料等のデータベース化に関する調査研究

業務関連資料のデータベース化、成果品等のデジタル化を図り、管理システムを構築します。

#### 「寒地開発技術委員会」の設置

寒地開発技術の開発動向や方向性、道路事業に関わる設計基準等の検討を行います。

#### インターンシップ制度

札幌に在住し、当センターで勤務可

能な大学院生を対象に研究の場を提供するほか、大学生や民間企業からの研修生等も受け入れます。

#### 沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業

シーニックバイウェイ北海道の参加団体を対象に共同研究事業を実施。特に、参加団体の連携事業に重点を置いて研究を行い、活動団体の研修派遣事業も実施します。

## 2. 調査研究成果などの紹介および普及

- ニュースレター(dec monthly)の発行12回
- ホームページの更新(URL <http://www.decnet.or.jp/>)
- 調査研究資料等の発行(随時)
- 学会・シンポジウム等での研究発表等

## 3. 出版刊行図書

- 第32回寒地技術シンポジウム論文・報告集(会員及び関係者に販売)
- 第16回「野生生物と交通」研究発表会講演論文集の編集

## 4. セミナーなど

- 第32回「寒地技術シンポジウム」(札幌市で開催)
- 第16回「野生生物と交通」研究発表会(開催地:札幌市)
- 地域政策研究セミナー等の開催(年4回程度)

## 5. 国際交流

- PIARC国際冬期道路会議の国内道路委員会との技術交流
- 米国シーニックバイウェイ関係機関との交流
- ISCORD2016(寒地開発に関する国際シンポジウム)韓国インチョン大会への参加
- 第15回日中冬期道路交通ワークショップ(札幌)開催の準備、運営を行う